



第四金曜日は映画の日

上映会 7/22(金)

巨匠二人の戦後第一作作品

「安城家の舞踏会」 10:30

・キネマ旬報ベストテン第1位



◎原節子映画祭木暮

1947年、90分、監督・原作：吉村公三郎、脚本：新藤兼人、撮影：生方敏夫、音楽：木下忠司、出演：原節子、滝沢修、森雅之、逢初夢子、津島恵子、清水将夫、殿山泰司、神田隆、

代々の名門華族である安城家。だが第二次大戦終結とともに没落の憂き目にさらされていた。家は抵当に入れられ、これまでの価値観はまったく通用しない時代がやってきた最中、安城家は最後の舞踏会を行うのであった…。脚本の新藤兼人はチェーホフの『桜の園』を下敷きに製作、現実感あふれるドラマに仕上がっている。新たな時代の到来を描いた吉村公三郎監督の代表作。

「長屋紳士録」 13:00

・キネマ旬報ベストテン第5位



1947年、72分、監督：小津安二郎、脚本：池田忠雄、撮影：厚田雄春、音楽：斎藤一郎、出演：飯田蝶子、青木放屁、小沢栄太郎、吉川満子、笠智衆、坂本武、谷よしの

小津安二郎の戦後第一作監督作品。戦後間もない東京、戦争で親を亡くした戦災孤児を拾ってきた男は、その子を女に預けてしまう。女はその子が疎ましくて仕方がなく、置き去りにしようとするがうまくいかない。グチをこぼしながらも次第にその子と情が通じるようになり、やがて長屋になくってはならない人気者になっていくのだった。

参加費

1作品につき 800円

「映画村会員」

「シニアネット会員」の方 500円

会場：NPO法人 シニアネット仙台

「一番町サロン」

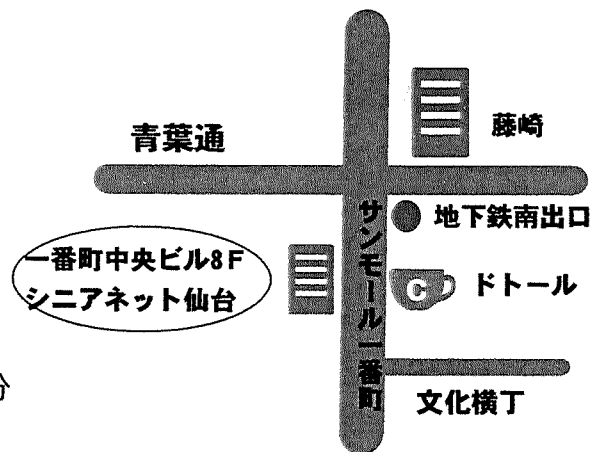
TEL 022-266-5650

仙台市青葉区一番町2-5-12

一番町中央ビル8F

地下鉄東西線「青葉通一番町駅下車」南出口1分

ドトールコーヒー仙台サンモール店 向いビル



グリゴリー・チュフライ監督特集

■グリゴリー・チュフライ監督 (1921年～2001年・ソ連邦ウクライナ共和国出身)

対独戦で負傷し復員後、映画大学でミハイル・ロムム他に学ぶ。1956年『女狙撃兵マリユートカ』で監督デビュー。1959年には「雪どけ時代」の代表作といわれる『誓いの休暇』を発表。ヒューマンなテーマと叙情的な映像、瑞々しさがチュフライ作品に共通している特徴である。

女狙撃兵マリユートカ

26日午前10時半より



(1956年・93分) 赤軍の女狙撃兵マリユートカは、四十一番目の敵を射止めた。その敵は白軍の中尉で、彼は負傷しただけですみ捕虜となった。マリユートカは中尉を船で護送することになるが、船は難破し孤島にたどりつく。しかたなく二人だけの生活が始まり、いつしか敵同士の二人の間に愛が芽生えはじめる…。フルシチョフのスターリン批判後、雪どけ時代の始まりを代表する作品。赤軍の兵士が敵を愛するという、それまでのソ連映画には見られなかったストーリー展開で、戦争の不条理を訴えた作品でもある。原作はボリス・ラヴレニョフの短編『41番目の男』。1957年カンヌ国際映画祭審査員賞。

誓いの休暇

26日午後1時より



(1959年・87分) 一兵士の帰郷を軸に、戦争反対をうたいあげた名作。19歳の兵士アリョーシャは思いがけぬ戦功から英雄と呼ばれ、6日間の帰郷の休暇をもらう。ところが、親切心から列車に乗り遅れたり、頼まれたことずてを人に届けたり、貨物列車で偶然出会った娘と淡く、悲しい恋をしたりする。結局母のもとへ辿り着いた時にはすでに帰路の日数を残すのみだった…。1960年カンヌ映画祭最優秀特別作品賞はじめ受賞多数。

会場：NPO法人 シニアネット仙台「一番町サロン」

TEL 022-266-5650

仙台市青葉区一番町2-5-12 一番町中央ビル8F

地下鉄東西線「青葉通一番町駅下車」南出口1分

ドトールコーヒー仙台サンモール店 向いビル

青葉通

一番町中央ビル8F
シニアネット仙台

サン
モ
ー
ル
一
番
町

● 藤崎

● 地下鉄南出口

● ドトール

文化横丁